



NGKスパークプラグ 鈴鹿2&4レース 2016
開催日:4月23日(土)・24日(日)

NGKスパークプラグ 80th記念 トークショー&デモラン ～モータースポーツを支え続けるNGKとともに歩んだ名車たち～ 開催のご案内

4月23日(土)・24日(日)の日程で開催する「NGKスパークプラグ 鈴鹿2&4レース」において、NGKスパークプラグの日本特殊陶業株式会社創立80周年を記念したイベントを開催します。モータースポーツの発展に大きく寄与し、これからも世界のモータースポーツを支え続けるNGKスパークプラグ。その輝かしい歴史を共に歩み1960年代のレースシーンを飾った8台のバイクと、1967年F1第7戦イタリアGPで0.2秒差の激戦を制して優勝したHonda RA300が時を越えて結集。それぞれのデモランで懐かしのエンジン音を轟かせて鈴鹿サーキットを駆け抜け、思い出のシーンを再現します。

また世界で活躍したNGKスパークプラグ搭載の歴史的マシンの展示、および日本のモータースポーツを牽引してきた星野一義氏と北野元氏の、2人のレジェンドドライバーによるトークショーも開催いたします。



Honda RA300



1962年 第1回全日本ロードレース選手権のスタートシーン

株式会社 モビリティランド 鈴鹿サーキット

〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992 TEL(059)378-1111 FAX(059)378-4568 URL <http://www.suzukacircuit.jp/>

マシン展示

これまで世界で活躍したNGKスパークプラグ搭載の歴史的マシンの展示を行います。

- 展示日程: 4月23日(土)・24日(日)
- 展示場所: GPスクエア
- 展示マシン



Honda RC142(1959年) マン島TT参戦マシン

1954年本田宗一郎が「マン島TTレース出場宣言」を出し、それから5年後、Hondaはその公約を果たすことになった。125cc DOHC 4バルブ 2気筒のRC142と、2バルブのRC141、5台がライトウエイト125ccクラスに参戦。RC142の谷口尚己、鈴木義一が6位・7位、RC141の田中祐助が8位、RC142の鈴木淳三が11位に入り、初参戦でチームメーカー賞を手にとることとなった。



YAMAHA YZF750(1987年) 鈴鹿8耐参戦マシン

1984年から8耐3連覇を果たしたHondaに対し、ライバルYAMAHAは1987年、平忠彦氏を監督に迎え8耐に乗り込んできた。YZF750のマーティン・ウィマー/ケビン・マギー組がHonda RVF750のワイン・ガードナー/ドミニク・サロン組と激戦を展開した末に優勝。平監督は2年前の1985年に世界選手権王者のケニー・ロバーツとドリームチームを結成して8耐に参戦。終始トップを走りながらチェッカー寸前にマシントラブルでリタイアしたが、その雪辱の優勝はYAMAHAの8耐初優勝でもあった。



モリワキモンスター(1981年) 鈴鹿8耐参戦マシン

鈴鹿8耐第1回大会で優勝し、最強プライベートと言われたヨシムラと並ぶプライベートチームの雄がモリワキ。第1回大会で3位表彰台に登ると第2回大会では予選でポールポジションを獲得する活躍を見せた。1981年、モリワキはオリジナルのアルミフレームにカワサキZ1000のエンジンをチューニングして搭載したモリワキモンスターを投入すると、当時無名だったワイン・ガードナーが予選で驚異的な記録タイムを記録。決勝は転倒してしまったがガードナーとモリワキの名を世界に知らしめたマシンだった。



Honda NSR500(1997年) WGP参戦マシン

1984年にHondaの世界グランプリ主カマシンとして投入されたV型4気筒エンジンを搭載したNSR500は1985年にフレディ・スペンサーがタイトルを獲得すると、その後も年々進化を続け、1987年にはワイン・ガードナーが自身初のチャンピオンを、1989年はエディ・ローソンがチャンピオンを獲得。1994年から1998年までマイケル・ドゥーハンが驚異の5年連続チャンピオンを獲得する活躍をみせた。中でも今回展示する1997年のNSR500は、年間15戦中12勝を挙げ、当時の新記録を樹立した。



Honda RA271(1964年) F1グランプリ参戦マシン

「できるかできんか、わかんねえけど、俺はやりにえよ」という本田宗一郎氏の言葉から始まったHondaのF1挑戦。2輪世界選手権やマン島TTレースで成功を収め、2輪メーカーとして世界の頂点に立ったHondaが新たなチャレンジとしてF1に挑戦し、その記念すべき実戦第1号マシンがこのHonda RA271だ。1964年のF1第6戦ドイツGPでデビュー。この年は初戦の13位が最高位だったが、翌年、RA271の改良型RA272を投入したHondaは第3戦で6位入賞。そして最終戦メキシコGPで見事初勝利を飾った。

デモラン&トークショー

■開催日時:4月24日(日) 11:25~11:55

■開催場所:国際レーシングコース 東コース(デモラン)、グランドスタンド前特設ステージ(トークショー)

【デモラン】

60年代ロードレースデモンストレーションラン

Honda F1 RA300デモンストレーションラン

第1回ロードレースを彷彿とさせる60年代レーサーによるデモンストレーションランと、1967年F1第7戦イタリアGPでわずか0.2秒差の激闘を制して優勝したHondaのF1マシン「RA300」のデモンストレーションランを行います。



1962年 第1回全日本ロードレース選手権のスタートシーン



Honda RA300

【トークショー】

**ゴールドスター・ドライバートーク ～日本モータースポーツの思い出～
日本のモータースポーツを牽引してきた2人のレジェンドドライバーが
振り返るあの時、あのシーン。**

「日本一速い男」と呼ばれ、国内の4輪レースタイトルを総なめにし、現在も監督としてSUPER GT、スーパーフォーミュラのチームを率いてトップ争いを展開する星野一義氏。2輪の世界GP参戦を経て、1968年の日本GPでニッサンR381を駆って優勝し、その後も数々のレースで無数の優勝を記録し国内のトップに君臨した北野元氏。2人のレジェンドドライバーがあの時を、そして今、未来を熱く語ってくれます。



星野一義氏



北野元氏